

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

| | |
|-------|-------|
| 区 名 | 港区 |
| 学 校 名 | 田中小学校 |
| 学校長名 | 弓削 壽志 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・田中小学校では、第6学年 35名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語が58%で全国平均の66.8%と比べて-8.8%、算数が50%で全国平均の58.0%と比べて-8.0%、理科が54%で全国平均の57.1%と比べて-3.1%であった。平均正答率では、国語・算数・理科ともに全国平均を下回っており、とくに国語と算数が大きく下回り課題が見られる。

平均無答率については、国語が2.2%で全国平均の3.3%と比べて-1.1%、算数が3.2%で全国平均の3.6%と比べて-0.4%、理科が1.7%で全国平均の2.8%と比べて-1.1%であった。無答率はどの教科ともに全国平均よりも低く、粘り強く回答できていることがわかる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全国差は、昨年の+1.3%から-8.8%と、-10.1%下回っている。

内容別では、「情報の扱い方」が全国差-14.5%、「我が国の言語文化」が全国差-15.5%と課題が大きい。

問題別では、漢字の書き取りについては、昨年度は正答率が低かったが、今年度は全国差-2.3%と他の問題に比べて正答率が高く、同音異義語のある漢字についても、正しく書くことができている児童が多いことがわかる（大問2-四-ア.イ）。一方で、目的や意図に応じて伝える内容を検討する問題（大問1-一）や、目的や意図に応じて書き表し方を工夫する問題（大問2-三）の正答率の低さが目立っており、目的や意図を考えて内容を考えることに習熟していないことが課題である。また、文章を書く問題の無答率が高く、条件に応じた文章を書くことに抵抗感をもつ児童が多いことも課題である。学力向上支援チーム事業では、国語科の学習で効果検証を行っており、今後も指導力の向上に努めていく。

〔算数〕全国差は、昨年の-0.4%から-8.0%と、-7.6%下回っている。

領域別では、「数と計算」が全国差-8.7%「図形」が全国差-9.1%と他の領域に比べて課題が見られる。

問題別では、図形の問題のなかで、面積の求め方は説明できる児童が多いが、図形の性質の理解や作図については課題が見られる（大問2-1.2.3）。また、分数の理解や計算に課題が大きく、特に分数を単位分数のいくつ分ととらえられていない児童が多い（大問3-1.2.3.4）。問題形式別で見たとき、考え方を記述する問題への抵抗感は少なく、授業で考え方をまとめる学習をしてきたことの成果と考えられる。

〔理科〕全国差は-3.1%で、国語・算数に比べると全国との差は少ない。

領域別では、「生命」が全国差-6.3%と他領域に比べてやや課題があるが、領域による大きな差は見られない。

問題別では、電磁石の強さと巻き数についての知識（大問2-3）・ヘチマの花のつくりや受粉の知識（大問3-1）・水の結露についての理解（大問4-2）といった、特定の問題の正答率が他の問題に低い。それ以外の問題については、全国平均を上回っているものも多くある。

質問調査より

児童の生活習慣については、「朝食を毎日食べている」の肯定的な回答が97.4%（全国平均94.9%）、「毎日同じくらの時間に寝ている」の肯定的な回答が84.6%（全国平均81.9%）と、いずれも全国平均を上回っており、規則正しい生活習慣が定着していることがわかる。

学習については、月曜日から金曜日の家庭学習時間と学校や休みの日の家庭学習時間が、ともに全国平均よりも低い傾向にあり、家庭学習時間が30分より少ない児童の割合も多い。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組む」児童の割合は76.9%で、全国平均を下回っている。一方で、国語・算数・理科のすべての教科において、「学習が好き」「学習がよくわかる」と回答する児童の割合は、全国平均を大きく上回っており、「教科の学習は将来役に立つ」と考える児童の割合も多い。このことから、自主的な学習習慣に課題があるものの、学校での授業には進んで取り組み楽しんで学習をしている様子がうかがえる。また、学習の中で、ICTが自分の考えをまとめたり広げたりすることにつながっているとの回答も多いことから、ICTを用いた学習の推進の成果が表れてきていると考えられる。

自己肯定感と学校生活については、「自分には、よいところがある」の肯定的な回答が92.3%（全国平均86.9%）、「将来の夢や目標をもっていますか」の肯定的な回答が94.9%（全国平均83.1%）と高い。これは、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が100%（全国平均92.2%）、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な回答が87.2%（全国平均70.6%）などにみられるように、学校の担任をはじめとした教職員に対して信頼を寄せており、学校が安心できる居場所であり、自己肯定感を育む環境となっていること示している。

今後の取組(アクションプラン)

今回の結果から、学校での学習はしっかりと理解できている児童が多い一方で、自主的に計画を立てて学習する習慣が確立しておらず、家庭学習の時間が短い児童が多いという本校の特色がみられる。児童が自主的に学習に取り組むことの大切さに気づき、家庭学習にも進んで取り組むことができるようにすることが必要である。そのために、自分で課題を見つけ解決していくという学習過程を授業でも積極的に取り入れることで、児童の学習への自主性を高めていきたい。

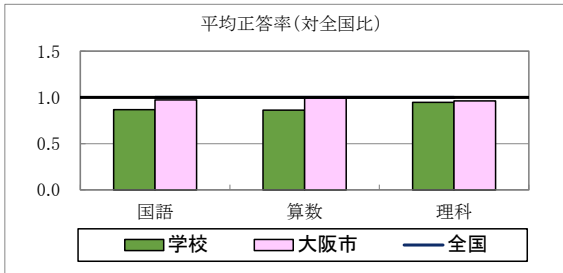
国語科や算数科をはじめとした教科学習では、ICTも活用しながら自分の考えをまとめたり、ペアやグループで自分の考えを説明しあう学習を積み重ねてきた成果が表れており、話し合う活動によく取り組んだと感じている。今後も引き続き話し合いや協働的な活動を取り入れながら、友だちと考えを深め合えるような授業をめざして、授業が「楽しい」「よくわかる」と考える児童を増やしていきたい。また、今年度より本格的に取り組み始めた総合的読解力育成については、引き続き総合的な学習の時間の一つの柱として取り組み、情報を整理して思考・判断する力を付けていきたい。

学校生活全般については、自己肯定感は高く、先生との関係に満足している児童が多い。今後も、「分からないときに教えてくれる」「困ったときに相談できる」関係を維持発展させることで、学校・学級が、より多くの児童にとって安心できる居場所となるようにしたい。そして、学級活動等で自分のよさや友だちのよさに気付く活動を行うことで自己肯定感のさらなる向上をめざしていく。

【 全体の概要 】

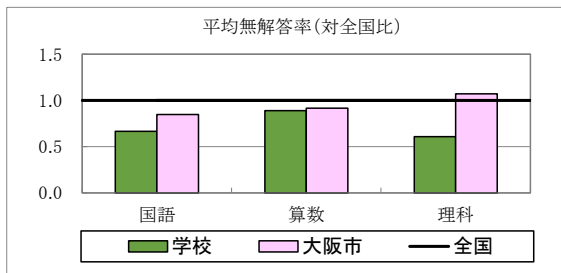
平均正答率（％）

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 58 | 50 | 54 |
| 大阪市 | 65 | 58 | 55 |
| 全国 | 66.8 | 58.0 | 57.1 |



平均無解答率（％）

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 2.2 | 3.2 | 1.7 |
| 大阪市 | 2.8 | 3.3 | 3.0 |
| 全国 | 3.3 | 3.6 | 2.8 |



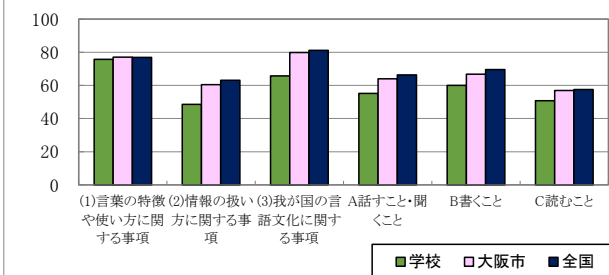
【 国 語 】

| 学習指導要領 の内容 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い 方に関する事項 | 2 | 75.7 | 77.1 | 76.9 |
| (2)情報の扱い方に 関する事項 | 1 | 48.6 | 60.4 | 63.1 |
| (3)我が国の言語文 化に関する事項 | 1 | 65.7 | 79.9 | 81.2 |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 55.2 | 64.0 | 66.3 |
| B 書くこと | 3 | 60.0 | 66.7 | 69.5 |
| C 読むこと | 4 | 50.7 | 56.9 | 57.5 |

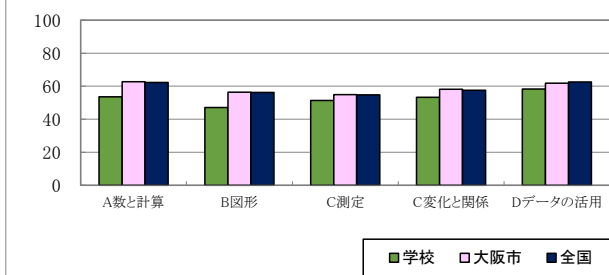
【 算 数 】

| 学習指導要領 の領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と計算 | 8 | 53.6 | 62.7 | 62.3 |
| B 図形 | 4 | 47.1 | 56.4 | 56.2 |
| C 測定 | 2 | 51.4 | 54.9 | 54.8 |
| C 変化と関係 | 3 | 53.3 | 58.2 | 57.5 |
| D データの活用 | 5 | 58.3 | 61.9 | 62.6 |

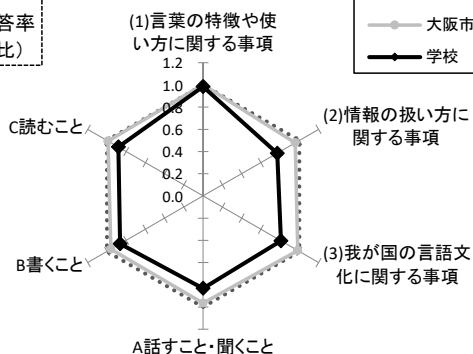
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



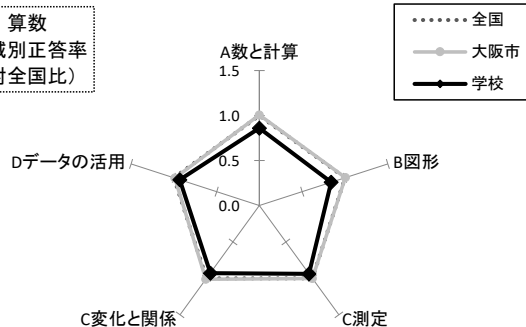
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

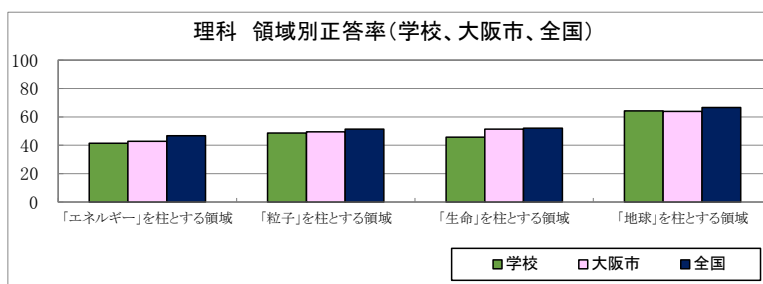


算数
領域別正答率
(対全国比)

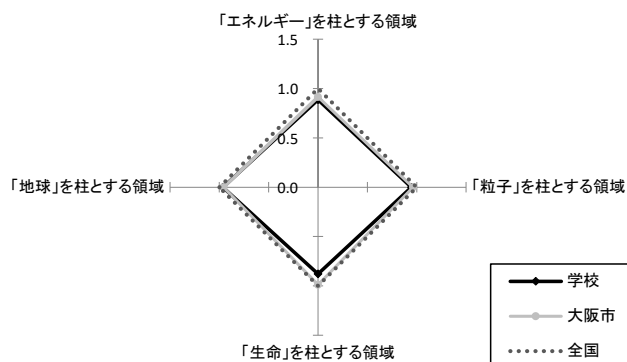


【 理科 】

| 学習指導要領 の区分・領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------|--------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 区 分 | 「エネルギー」を 柱とする領域 | 41.4 | 42.7 | 46.7 |
| | 「粒子」を 柱とする領域 | 48.6 | 49.5 | 51.4 |
| B 区 分 | 「生命」を 柱とする領域 | 45.7 | 51.4 | 52.0 |
| | 「地球」を 柱とする領域 | 64.3 | 63.8 | 66.7 |



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

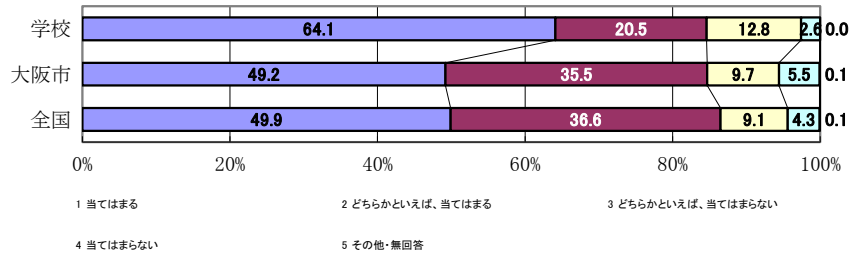
質問番号

質問事項

12

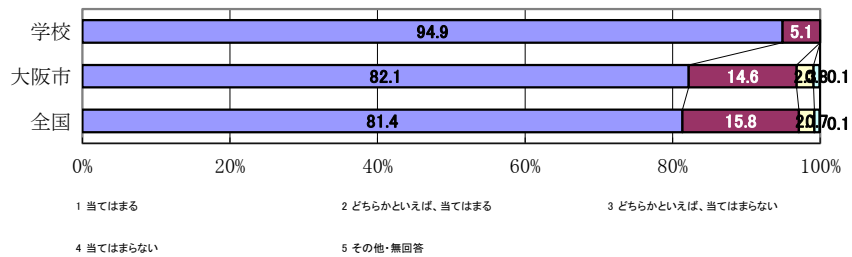
学校に行くのは楽しいと思えますか

1 2 3 4 5 6 7 8



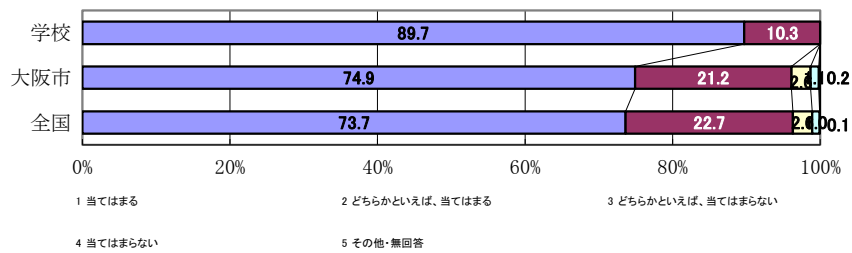
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



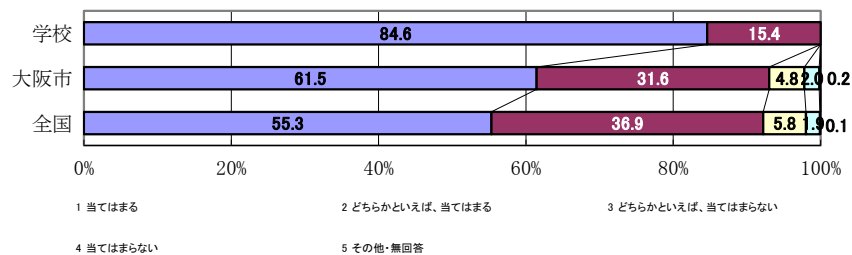
11

人の役に立つ人間になりたいと思えますか



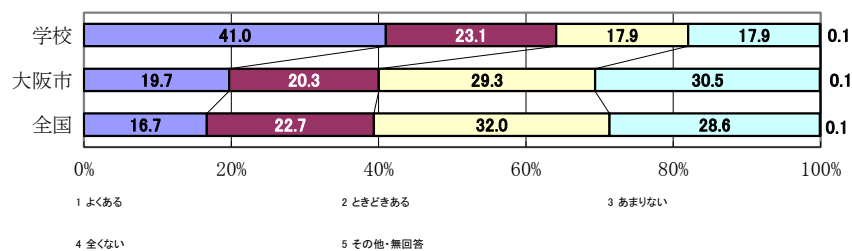
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか



26

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)



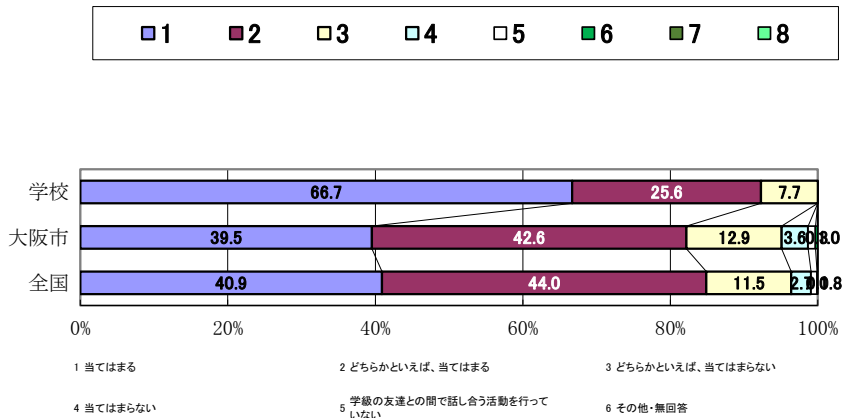
児童質問より

質問番号

質問事項

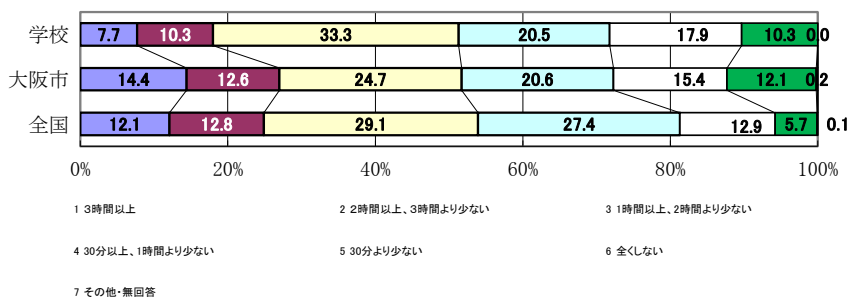
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



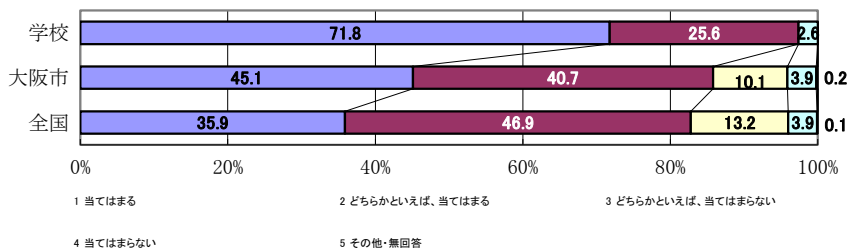
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)



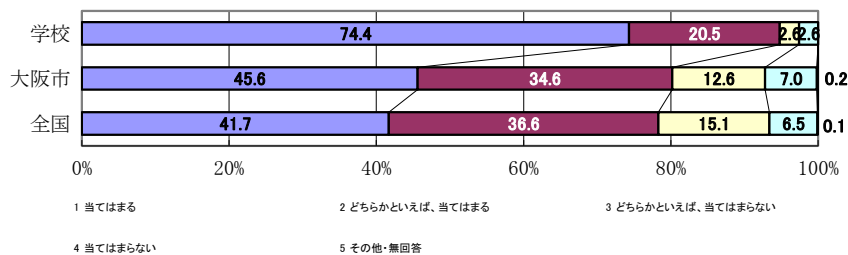
46

国語の授業の内容はよく分かりますか



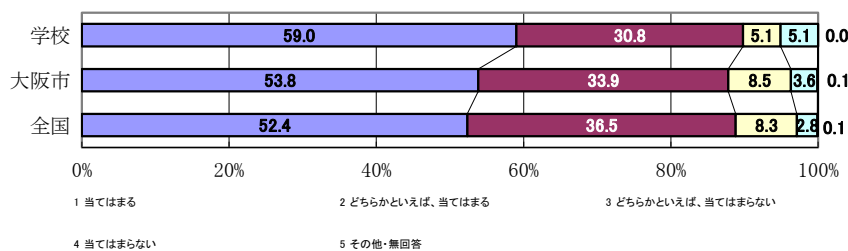
54

算数の授業の内容はよく分かりますか



62

理科の授業の内容はよく分かりますか



学校質問より

質問番号

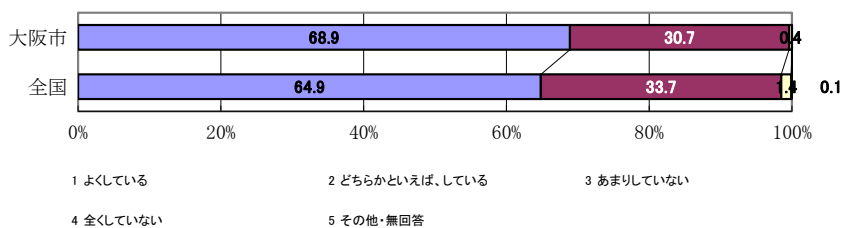
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

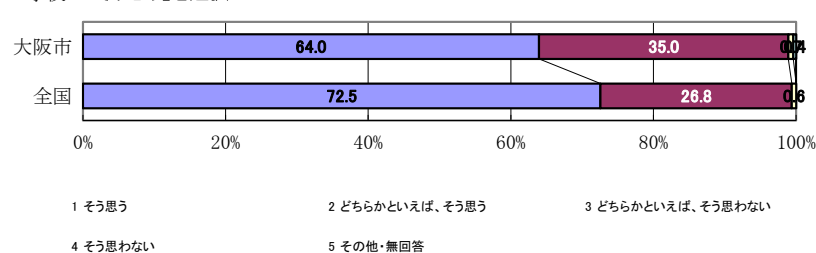
学校 「よくしている」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

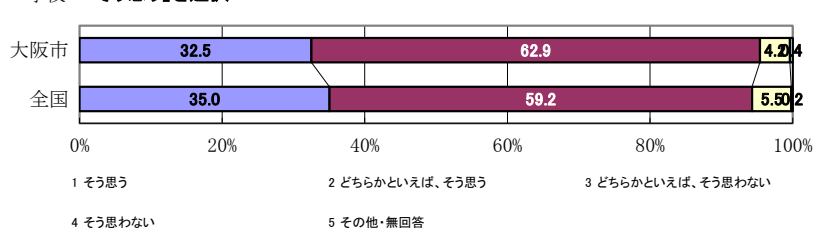
学校 「そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

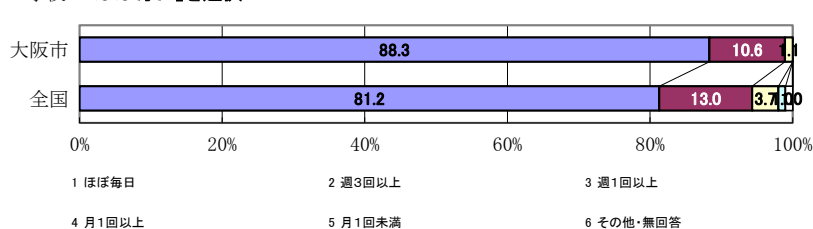
学校 「そう思う」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

